



湾岸・アラビア半島地域ニュース

オマーン：サイクロン「グヌ」による被害及び復興対策 (6月11-12日付現地報道)

1. 国内の被害状況

- (1) 6月11日、匿名希望の政府関係者によると、現在スルタン・カブース港とスール港は正常に運営され、日量65万バレルの原油を積出すファハル石油ターミナルも9日に業務を再開した。しかし、3日間に及ぶサイクロン「グヌ」による石油輸出の停止により、オマーンは2億ドル以上の損失を蒙った。
- (2) 11日、オマーン国営テレビは、今回のサイクロンによる損害は最低10億ドルにのぼると報じた。
オマーンは、1945年に記録が開始されて以来の最悪の自然災害の処理を自国の資源のみに頼ろうとしており、同国政府は国際的支援を求めず、米国海軍の支援申し出も受けなかった。
- (3) ナブハーニー参謀総長によると、シャルキーヤ地方とマスカットでは、病院向けの電力と水道が回復し、各州間の道路が再開され、国軍は、避難していたマシーラ島とハラニヤート諸島の住民の帰宅を支援している。

2. 11日、カーブース国王は閣僚評議会をバラカ宮で開催し、今回のサイクロンによる被害及び今後の復興対策につき協議した。

3. 復興対策に関するカーブース国王の下命事項

- (1) 宮内相によって率いられ、国民の家屋及び財産が蒙った被害の評価・算定を担当する第一委員会の設置
- (2) 国家経済相兼エネルギー資源評議会副議長によって率いられ、道路、橋、電気、水道網等のインフラを回復する第二委員会の設置。
- (3) 被災民への緊急援助基金（総額700万リアル（約22億円）で発足し、一般の寄付も受け入れ可能）の創設。
- (4) 気候上の変化による損害を軽減するための防護ダムの建設。